

## 通所介護事業

介護保険法に基づき、65歳以上の方で、要支援1以上のご利用者に対して、当センターへ通所(送迎)頂き、各種のサービスを利用されることにより生活の助長・社会的孤立の解消心身機能の向上を図ると共に、ご家族の負担減少を図っています。  
又、選択性レクリエーションを取り入れ、ご利用者のニーズに合わせた取り組みを行っております。

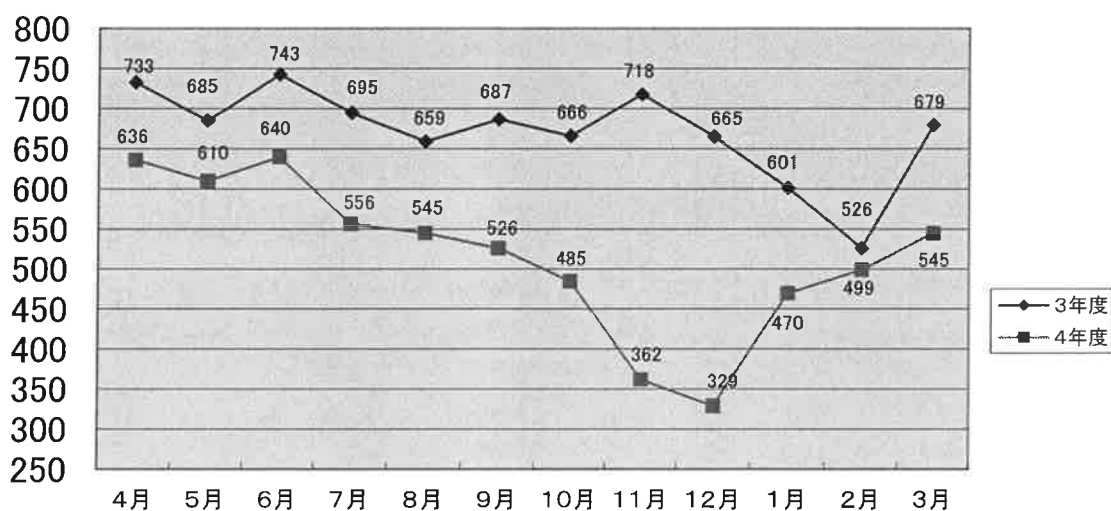
(1)事業開始年月日  
平成8年4月1日

(2)利用定員、営業時間等  
1日:45名以内  
月～金曜日(祝日営業)  
8時30分～17時00分(送迎時間含む)

(3)令和4年度月別利用状況

	利用者実数	利用者延数	平均利用者数	営業日数
4月	88	636	30.3	21
5月	82	610	27.7	22
6月	82	640	29.1	22
7月	78	556	26.5	21
8月	70	545	23.7	23
9月	71	526	23.9	22
10月	72	485	24.3	20
11月	72	362	22.6	16
12月	68	329	23.5	14
1月	72	470	24.7	19
2月	71	499	25.0	20
3月	72	545	23.7	23
合計	898	6,203	25.5	243

年度別月別延利用者推移



## 宇陀市短期集中型通所Cサービス

宇陀市在中の方で、生活機能評価(基本チェックリスト)により事業の対象となった方が、おおむね3ヶ月間、もしくは6ヶ月間で運動・栄養・口腔等の要素を組み合わせたプログラムを集中的に提供することにより、利用者が生活機能を向上させ、地域資源を活用した健康づくりや介護予防に取り組むことができるようにします。

(1)事業開始年月日

平成30年10月24日

(2)利用定員、営業時間等

1回:20名

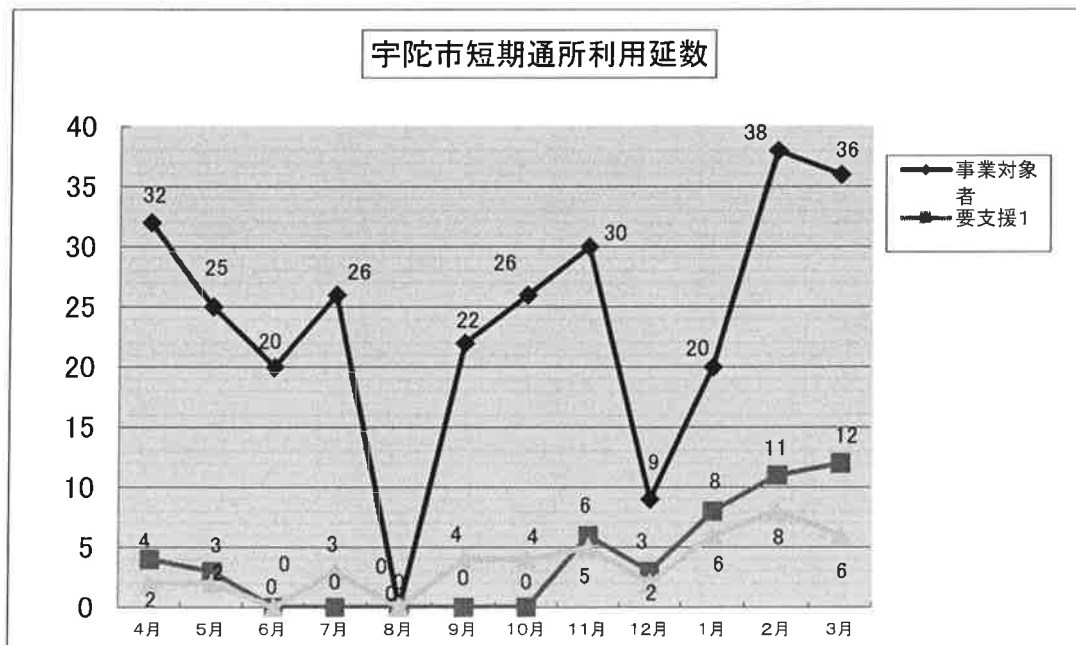
水曜日(祝日営業)

9時30分～12時00分(送迎時間除く)

13時30分～16時00分(送迎時間除く)

(3)令和4年度月別利用状況

	利用者実数	利用者延べ人数		
		事業対象者	要支援1	要支援2
4月	11	32	4	2
5月	11	25	3	2
6月	8	20	0	0
7月	8	26	0	3
8月	0	0	0	0
9月	7	22	0	4
10月	8	26	0	4
11月	16	30	6	5
12月	14	9	3	2
1月	15	20	8	6
2月	15	38	11	8
3月	15	36	12	6
合計	128	284	47	42



#### (4) 年間目標・評価

##### 令和4年度 通所介護年間目標

- 1 サービスの生産性と働き甲斐の向上を図る
  - 職員それぞれの強みを活かした成長できる職場環境を作る
  - 間接業務の削減、業務の負担軽減の工夫を行う(効率的な運営の実現)
- 2 ご利用者様が日常生活で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現いただけるよう生活機能向上サービスを提供する
  - 「BI(バーセルインデックス)」「DBD13(認知症行動障害尺度)」「VI(バイタリティインデックス)」等の評価方法を活用し、アセスメントの共通認識を図る
  - 興味・関心チェックシートを活用し、ご利用者様毎に最適な目標とサービスプログラムの設定を行う
- 3 関係機関との連携を深め、地域における課題解決に向けた活動をすすめる
  - 宇陀けあネットを利用し、他事業所、医療、看護との情報共有、連携を図る
  - コロナ禍における標準予防策を継続し、クラスターを発生させない
  - 在宅サービスと連携の取れたBCPを作成する

##### 【年間目標に対する評価】

コロナ禍以前に比べ、稼働率は大幅に落ち込み、その結果収支状況も悪化したままの厳しい状態が続いている。さらにコロナの影響により長期間営業が実施出来なかったことや、ご利用者様、ご利用者家族の発症により欠席が長期化することでADL、認知機能が低下し、在宅での生活が継続困難となって利用が中止されるケースが見られた。現状を打開し、安定した利用実績を図れるよう、様々な課題を解決していかなければならない。そのためにも経営的視点と現場的な視点それぞれの危機感を共有していくための話し合いの場が必要である。

今後、機能訓練指導員、相談員、介護職、看護職が協力し、ご利用者様、そのご家族様の在宅での生活がより良くなるよう日常生活におけるアドバイスや役割作りが行いサービスの向上を図りたい。アセスメントの基本となる評価軸を持ち、職員間でのコミュニケーションをいかに行うかは、ご利用者様のレベル低下を防ぐ上で重要なポイントである。この点については、これまでバーセルインデックスを活用し、点数評価を用いたことは、一定の成果が一部認められたと考える。

ほのぼのの活用は、記録にかかる時間の大幅な削減につながった。また、介護補助による間接業務の手助けなどが介護サービスの本質的な部分の実施に非常に役立っている。現状のスタッフが持つスキルの最適化を図り、効率的に業務を実施していくことは、必要なことに時間と労力をかけ、効果が得られるようお互いが補いあい、不足分を埋めていけるよう協力しあえることに繋がっている。

ICTの活用など新しい取り組みもチャレンジしていきながら、自分たちの強みと魅力を地域に発信して行き、他事業所との差別化を図ることで集客力を高め、数値目標達成に向けて取り組みたい。

##### 令和5年度 通所介護年間目標

- 1 サービスの生産性と働き甲斐の向上を図る
  - 職員それぞれの強みを活かした職場環境を作るための話し合いをすすめる
  - 業務の負担軽減の工夫を行う
- 2 ご利用者様が日常生活で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現いただけるよう生活機能向上サービスを提供する
  - LIFEにおける評価基準を活用し、アセスメント情報の共有化を図る
  - ご利用者様毎に最適な目標とサービスプログラムの設定を行う

- 3 関係機関との連携を深め、地域における課題解決に向けた活動をすすめる
- ほのぼの、宇陀けあネットを利用し、情報共有、連携を図る
  - 自分たちの強み、魅力を発信し、情報発信していく